五　採鑛設備の進歩と災害の増加……二二
第四章　將來の鑛山……二三
一　歴史は繰り返へす……二三
二　將來の鑛山の推測……二四
三　人道的文明的方法に依る社會改造……二六
第五章　幸福の世界へ行くには……二八
一　先づ自覺團結すべし……二八
二　勞働を愛すべし……二八
三　貧困を恥づる勿れ……二九
四　國家と協力すべし……三〇

# 鑛山の過去現在及び將來

## 第一章　苦の世界より幸福の世界へ

凡そ正當の勞働をして社會の繁榮に貢献する人間は誰でも幸福な生活をする權利を持つてゐる、と私は考へる。勞働者は生産者である。勞働者の勞働が無かつたならば、社會は一日も其繁榮を保つことは出來ないのである。それ故、社會は勞働者に幸福な生活を保證する義務が有るのだ。勞働者も又生活の幸福を社會に向つて要求する權利が有るのである。

然るに諸君！　諸君は果して幸福な生活をしてゐるのであるか。凡そ幸福な生活とは衣食住足り健かなる身體を有するのみならず、智識と人格とを磨いて精神生活を豐富にし、人として恥からぬ道義的生活をなすことを謂ふのである。靜に考へ